

早世の妻を偲ぶ詩集「砂金」

大信下小屋生まれの芥川賞受賞作家である中山義秀の長女・山本玲子さんから、義秀が20歳の時、妻敏子との結婚の仲立ちとなった、西条八十著の「砂金」(大正8年発行)が中山義秀記念文学館へ寄贈されました。

この詩集は、妻敏子が33歳で逝去した後、玲子さんのもとにありましたが、義秀の心の故里である大信にということで寄贈されたものです。



戸田市民と和やかに交流

2月20日、すぱーく白河(中田)で、友好都市・戸田市のレクリエーション協会(秋元隆志会長)と市ゲートボール協会(石井武会長)による、交流ゲートボール大会が開催されました。

当日は、市ゲートボール協会員の指導のもと、戸田市と本市の混成チームによる交流試合が行われ、参加者40人は和やかな雰囲気の中で交流を深めました。



全国高等学校総合文化祭をPR

3月2日、来年8月に県内で開催される「全国高等学校総合文化祭(ふくしま総文)」の生徒実行委員が、開催地市長・教育長表敬訪問のため、市役所を訪れました。

生徒実行委員は、PR用のミニのぼりやエコバックを鈴木市長らに手渡し、イベント内容を説明しました。なお、本市では、弁論と特別支援学校の作品展が予定されています。



◀白河市農産物ブランドマーク
▼最優秀賞に選ばれた宮崎さん(写真左)



に採用されました。このブランドマークは、今後、白河市農産物ブランドとして認証された商品などに使用され、本市の農産物のPRに活用されます。

発表会では、宮崎さんらに表彰状と副賞が贈呈され、その後、地元の農産物を使用した加工品の試食会も行われました。

まち Topics トピックス

白河市農産物ブランドマーク決定

3月19日、鹿島ガーデンヴィラ(北中川原)で、「白河市農産物ブランドマーク発表会」が開催されました。

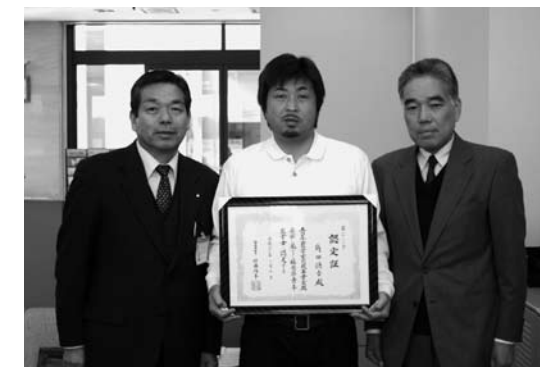
262点の応募作品の中から、最優秀賞には、宮崎敬司さん(大阪府茨木市)の白河だるまをモチーフに、白河の「白」をイメージした作品が選ばれ、ブランドマーク

これからの農業を考える

2月28日、板倉公民館(東上野出島)で、「板倉地区集落営農研修会」が開催されました。

これは、「魅力ある集落営農の担い手の育成」を目的に開催されたものです。

研修会では、県南農林事務所の竹内孝重地域農業推進課長と鈴木市長が、これからの農業振興政策等について講演し、参加者はメモをとるなどして、熱心に耳を傾けていました。



将来の農業を担う青年農業士

2月24日、表郷庁舎で角田徳幸さん(表郷河東田)へ県青年農業士認定証が交付されました。

県青年農業士は、3年以上の営農経験を有し、将来とも農業経営を実践して、地域農業の推進者になると見込まれる30歳以上35歳未満の方に交付されるものです。

角田さんは、「青年農業士の活動を通じて地域農業に貢献したい」と話しました。